北九州市立文学館 ニュース

文学の栞（しおり）

Kitakyushu Literature Museum News

第17号

2015年3月31日発行

「林芙美子文学賞」を創設

館長　今川　英子

文学賞をもらいたいが、日本には文学賞が少ないし、あっても自分には文学賞をくれないだろうから、いつか林芙美子賞資金をどこかへ寄附して、その利子で年々文学賞をだしてもらおうかしら。但し、その場合も、第一回は林芙美子に授賞するという条件をつけたら、どうだろうか……

芹沢光治良が戦前、林芙美子と親しく行き来していた時の話として随筆に書いている。だからという訳ではないが、二十四回続いた「自分史文学賞」を発展・解消する形で、「林芙美子文学賞」が生まれた。前者は森鷗外を顕彰する目的で創設され、晩年の「史伝もの」と言われた評伝に着目、当時提唱されつつあった「自分史」を重ねた。今や、「自分史」は高齢化の時代を迎えて広まり、自費出版も多い。

文学賞の類は数多ある。作家の名前が冠された文学賞だけでも川端康成、谷崎潤一郎、織田作之助、吉川英治、野間宏、紫式部等々。新人賞では太宰治、松本清張、室生犀星、坊っちゃん文学賞（夏目漱石）など。それぞれに特色を持つこれらの賞の中で、後発の林芙美子文学賞がどのように特異性を持つ賞となりうるか。結果的に三人の選考委員（井上荒野・角田光代・川上未映子さん）と授賞作品がその方向性を示してくれた。

大賞作、井岡道子さんの「次ぎの人」は、四国の山村の昔から続く葬儀の風習が、瑞々しい風景描写を背景に描かれる。林芙美子の短編小説に通ずる営々と生きる生活者の姿でもある。ディテールの確かさとリアリズム、周到な構成や地の文と会話文のバランスの良さなど完成度の高い作品として評価された（三月二四日発売の「婦人公論」に全文掲載）。

第六回を迎えた「子どもノンフィクション文学賞」。全国の小中学生を対象に、自身の体験や、観察、取材を基に作文したものを募集。今回の小学生大賞は、西小倉小学校五年・田村一哲君の「戦争と子どもたち」。八二歳の祖父の戦争体験を丹念に取材した記録で、戦争のむごたらしさを浮き彫りにする「事実」の力を再認識した、と選考委員から高い評価を受けた。その一人、リリー・フランキーさんは、「『本当に正しいことが何なのか判断できる力を身につけたい』という彼の思いと、高い知性が伝わって」くると評している。この賞も大切に育てていきたい。

さて今春はいよいよ夏目漱石展。日本の近代化のなかで内外から迫る人間存在の不安を衝いてその根源を追い、心情と理性、欲望と道徳、個人と社会、男と女の相剋を通してその本体に喰入っていった漱石文学をどうぞ。

夏目漱石短冊
「西函嶺をこえて海鼠に眼鼻なし」

目　次

館長記事―「林芙美子文学賞」を創設 …… 1
第18回特別企画展　宙のかけらたち　詩人宗左近展 …… 2
開会記念講話（北九州市立文学館館長　今川英子）…… 3
三浦雅士さん講演会「詩の力　批評の力」
平出隆さん講演会「詩人と故郷―宗左近と響灘」
文学講座　稲田大貴学芸員、加藤邦彦さん、春野修二さん
第1回「林芙美子文学賞」表彰式 …… 4
「林芙美子記念室」リニューアルオープン
第1回「林芙美子文学賞」記念トーク …… 5
第6回「北九州市子どもノンフィクション文学賞」表彰式
新資料紹介　杉田久女、橋本多佳子資料
第5回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式 …… 6
詩×音楽×ダンス　音巡りコンサート「ひびきあう」
シンポジウム「介護と文学」
銀・ギラ・Ag写真展 …… 7
詩画集「ふきのとう」展
北九州と3・11―ゆかりの作家が書いた東日本大震災―
ロビー展
第10回櫓山荘子ども俳句大会
第8回北九州文学協会文学賞・第5回北九州芸術祭ジュニア部門川柳優秀作品展
第8回北九州文学協会文学賞優秀作品展
文学館セミナー
平成27年度企画展のご案内 …… 8
お悔やみ
資料寄贈者・提供者、受贈雑誌一覧

北九州市立文学館第18回特別企画展

宙（ソラ）のかけらたち
詩人 宗左近展

2014.10.25sat ～ 2015.1.12mon

後藤みな子さん

自見榮祐さん

原田暎子さん

西村りんさん

大石寛子さん

平成26年秋の特別企画展は「宙のかけらたち―詩人・宗左近展―」を開催いたしました。

詩人・宗左近は1919年、北九州戸畑の牧山峠で生まれました。法政大学に教員として勤めながら詩作を続け、67年『炎える母』を刊行し、翌年、藤村記念歴程賞を受賞しました。詩のほか、美術評論、翻訳の分野でも活躍し、生涯で100冊に及ぶ著書を刊行しました。本展では、ご遺族よりご寄贈いただいた一万点超の資料をもとに、宗の生涯と文学活動、北九州との関わりを取り上げました。

第一部　詩人の生涯

北九州・宮崎で過ごした少年時代、旧制一高・東京帝大での青年時代、それから没するまでの三つの時代に分け、生涯を概観しました。旧制一高時代に書かれた初めての小説「千恵子への遺書」（未発表原稿）をはじめとする自筆原稿、ノート類のほか、宗の手による書、最期の手帳などを紹介。また宗が傾倒し蒐集した縄文土器のうち、2点も公開しました。

第二部　宙のかけらたち―宗左近のことば―

多岐に渡る文業を詩・美術評論・翻訳の分野別に紹介しました。学生時代に書かれた詩の草稿や『炎える母』、詩作群《縄文シリーズ》、中句集の自筆原稿・創作ノートなどの他、前衛芸術やアジアの古美術に関する評論のためのノート、フランスの哲学者・ロラン・バルト『表徴の帝国』の翻訳原稿などをご覧いただきました。

第三部　そこがどこでも響灘

宗は、産土の地である北九州に愛憎入り混じる思いを持っていました。1999年には故郷を描いた中句集『響灘』を刊行しますが、それ以前から未発表ながら、故郷を題材にいくつかの文章を書いていました。それらの原稿や、『響灘』の自筆原稿などを紹介しました。（展示資料点数＝約200点）

アンケート

・入口にある美しい海原のポスターにひかれて入りました。詩には興味がなかったので迷いましたが、想像していたものとはちがい、生々しく、心にダイレクトに訴えるものがありました。（30代・女性）

・「生きる」とはなんだろう？と考えさせられた。戦争でなくした母や友人を思ってかいた詩は心痛い思いがした。〝遠くのよろこびは近くのかなしみではないか〟この言葉が好きになった。（10代・女性）

・『炎える母』がほしくなりました。宗左近さんのことは元々知らなかったのですが、ポスターの雰囲気や写真、〝響灘〟の文字にひかれて10月からずっときたいと思い、ようやく来られました。文学にふれることができるこうした企画展、とても感謝しています。（20代・女性）

開会記念講話

平成26年10月25日

開会にあたり今川文学館館長が講話を行い宗左近の文業を概説し、初めて宗に面会した時のエピソードなどを紹介しました。また、北九州の宗左近ファンクラブ制作のDVD「あの世とこの世の間（あわい）に―詩人・宗左近―」を上映。より深く、展覧会を楽しんでいただける講話となりました。

三浦雅士さん講演会

平成26年10月29日

宗左近と生前親交の深かった文芸評論家の三浦雅士さんによる講演「詩の力　批評の力」が行われました。

まずは宗の表現活動を理解する二つの前提についてお話されました。一つは、俳人長谷川櫂の芭蕉解釈を引きながら、「観念と現象」とが接するところから生まれる詩は「宇宙感覚」をもたらし、宗の言う「宇宙」はそのようなものであること。もう一つは、宗が小校時代に河童の映画を見たことで、自己存在が揺らぐ、強い衝撃を受けたことです。三浦さんはこの経験を、自他の入換えが可能になる「言語の危険性」と同じものと解釈されました。宗の詩は読者に痛苦を感じさせる、「おいしくない」ものだけれど、直接的に言語の危険性と向き合っており、重要な問題を孕んでいることを指摘されました。言語の非常に危うい均衡を支えるのが詩であり、宗は全生涯においてその危険性と向き合わざるをえず、そのために『炎える母』の詩作におけるような自己処罰を続けたのです。このことは宗の不幸でもあり、幸福でもあった、と語られました。

言語の問題を通じて、圧倒的な熱量で宗左近を語られる三浦さんの言葉が参加者の胸に強く響く、熱気あふれる講演会となりました。

三浦雅士さん

平出隆さん講演会

平成26年12月14日

「詩人と故郷―宗左近と響灘」と題し、詩人で多摩美術大学教授の平出隆さんの講演会が行われました。

平出さんは「私は北九州が嫌いです」と語った宗の言葉の強さに圧倒されたといいます。その上で故郷を描いた『響灘』を読み、宗の「中句」という試みは失敗だけれども、現代詩を否定し新たな領域を目指した意思は重要だと話されました。

ご自身もまた、お父様が亡くなられる直前、病院に通い、小倉の街を歩いたときのことを短歌のかたちで綴られました。しかしこの試みが、北九州は「物質主義」で「汚い街」なのに、綺麗な言葉で隠されていると批判されたことに対し、この批判が愛憎併せもつ土地の者には無効で、故郷は他所の出身者と共有できない「自分にしか見えない幻」のようなものと反論した文章を紹介されました。それを踏まえて宗の言葉を思い返すとき、故郷とは色んな人の「故郷」が集まったものではないかと考え、それは他者と向き合うことにつながるとお話されました。

宗は「宇宙」という大きすぎるものを掴もうとし、翻弄されながらも、それに繋がっていたのは「嫌い」と言っていた故郷・北九州であり、それが「原郷」であったと語られました。

故郷への「憎悪愛」を、ご自身の北九州でのエピソードを交えつつお話いただき、参加者の皆さんも共感しながら聞き入っていました。

平出隆さん

文学講座

稲田大貴（北九州市立文学館学芸員）

平成26年11月15日

「詩人・宗左近のこと―戦争と縄文、そして北九州へ―」と題し、展覧会担当者として宗左近の生涯、文学活動を概観、その詩性のあり方と今後の宗左近研究の問題点について話しました。

加藤邦彦さん（梅光学院大学准教授）

11月22日

近現代詩研究がご専門の先生に「現代詩のなかの宗左近」と題し、近現代詩における宗左近の位置づけについて、詩の解釈を踏まえながらお話いただきました。詩史において位置づけが困難だった宗の詩の位相が明確になる講座となりました。

春野修二さん（美術家）

12月6日

宗左近と知己の先生に、宗左近の詩との出会い、ご自身の版画と宗の詩との共作を依頼したエピソードや、北九州で宗左近展や講演会を依頼したことをお話いただき、宗の人物像がより立体的に感じられる講座となりました。

加藤邦彦さん

春野修二さん

第1回「林芙美子文学賞」表彰式

平成27年2月28日

今年度から創設した「林芙美子文学賞」（事務局＝北九州市立文学館）の第1回表彰式が、門司港レトロ地区の旧門司三井倶楽部で開催されました。

全国から寄せられた1602編もの応募作の中から、大賞には井岡道子さん（東京）の「次ぎの人」が、佳作には志馬さち子さん（東京）の「うつむく朝」と高倉やえさん（東京）の「ものかげの雨」が選ばれました。

選考委員である井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さんという3人の人気作家が顔をそろえる華やかな雰囲気の中、文学館関係者、地元関係者、議員などが数多く出席し、賑やかな表彰式となりました。

大賞を受賞した井岡さんは「受賞の知らせを聞いて私がどんなに嬉しかったかはみなさんきっと想像できないと思います」との喜びの声を聞かせてくれました。憧れの作家さんたちとの対面に受賞者の皆さんは感激の面持ちでした。

大賞：井岡道子さん

佳作：志馬さち子さん

佳作：高倉やえさん

川上未映子さん

表彰に引き続き、選考委員からそれぞれ講評をいただきました。3人の選考委員はいずれも「応募作のレベルが非常に高いことに驚いた」というコメントをされていました。

予想を大幅に上回る応募数があり、作品のレベルも高く、大成功と言ってよい成果を収めた「林芙美子文学賞」は、平成27年度以降も継続して実施します。

第1回を終えて、様々な課題も見えてきました。この文学賞の目的である「北九州市の豊かな文学的土壌を全国に発信するとともに、文学の新しい才能を発掘する」という命題に向けて、賞の運営方法の見直しや、受賞作品が編集者の目に留まるための仕組みづくりなどを進めていきます。

この文学賞の受賞をきっかけに、作家への道を進まれる方が多く生まれることを願って、地域の皆さんにもご協力を賜りながら、さらに素晴らしい賞に育てていきたいと思います。

「林芙美子記念室」リニューアルオープン　平成27年2月28日

文学賞授賞式にあわせ、旧門司三井倶楽部2階の「林芙美子記念室」（旧名称「林芙美子記念資料室」）をリニューアルオープンしました。

左から北橋市長、中島門司文化団体連合会会長、川上未映子さん、角田光代さん、井上荒野さん、戸町北九州市議会議長

門司生まれ（下関説もあり）の林芙美子の生涯と作品を、資料とパネルで紹介しています。展示室をこれまでの2部屋から4部屋に拡大し、原稿、書簡、日記、手帳、絵画、書などの自筆資料をはじめ、交友のあった作家からの書簡、愛用の品々、映画化作品のポスターなどおよそ150点を展示。当館所蔵資料のほか、新宿歴史博物館、尾道市、長野県山ノ内町、赤毛のアン記念館・村岡花子文庫など全国各地に遺（のこ）る資料を複製展示したことで、作家林芙美子の全体像が展観できます。また、書斎（現・新宿区立林芙美子記念館）の再現も見どころです。

各室の主な展示資料

Ⅰ室…生誕から上京まで

名池尋常小学校（現・下関市立名池小学校）の学籍簿、「九州炭坑街放浪記」（「改造」昭和4年10月）、尾道高等女学校の卒業証書など。

Ⅱ室…『放浪記』と作家デビュー

第一詩集『蒼馬を見たり』、『放浪記』、パスポート、パリでの日記帳、渡辺一夫からの書簡、原稿「羅典區の散歩―或る女作家の一年間―」など。

Ⅲ室…戦中・戦後と終焉

『牡蠣』出版記念会芳名簿、旅行券（陸軍省報道部発行）、手帳「漢口従軍日記」、原稿「浮雲」、弔辞（青野季吉、広津和郎、真杉静枝）、書斎の再現など。

Ⅳ室…芙美子のおもかげ

川端康成、小林秀雄、九鬼周造などからの書簡、映画関連資料（パンフレットやポスター）、絵画「顔」、漢口従軍時のトランクや腕章など。

第1回「林芙美子文学賞」記念トーク

平成27年2月28日

第1回「林芙美子文学賞」表彰式が行われた同日、朝日新聞社との共催で、井上荒野さん、角田光代さん、川上未映子さん、3人の選考委員による記念トークを旧門司大連航路上屋ホールにて開催しました。

なかなか直にお話を聞く機会が少ない人気作家のそろい踏みとあって、開場前の早い時間から熱心なファンが並び、定員一杯約250人の来場者がありました。

今川館長が進行役を務めたトークでは、気の合う作家仲間の本音が縦横無尽に飛び交う展開となり、はからずも作家さんの意外な素顔が垣間見える貴重な時間となりました。

来場者からは「本当に楽しいトークだった」という声が多く寄せられました。

角田光代さん　井上荒野さん　川上未映子さん　今川文学館館長

第6回「北九州市子どもノンフィクション文学賞」表彰式

平成27年3月22日

今年度から「北九州市子どもノンフィクション文学賞」の事務局を文学館が務めることになりました。今回の応募作品数は小学生中学生あわせて1041編。その中から小学生の部では、田村一哲さん（北九州市）の「戦争と子供たち」が、中学生の部では中村友哉さん（福岡市）の「僕と御朱印」が大賞作品として選ばれました。

文学館交流ステージで行われた表彰式では、大賞2名のほかに佳作4名、選考委員特別賞7名の計13名と学校団体賞の3校に賞が授与されました。

北橋市長や選考委員から賞の授与を受けた子供たちは、晴れの舞台にやや緊張気味でしたが、皆とてもうれしそうでした。

受賞者、選考委員の皆さん

表彰の後、選考委員の那須正幹さん、最相葉月さん、リリー・フランキーさんにそれぞれ講評をいただきました。

那須さんは「今回の作品全体を通じての感想は、文学性という点では向上してきているが、もっと外に向かってアンテナを張り巡らせ、興味関心を持てるテーマを見つけてほしい」

最相さんは「文章力は高いが、このテーマをどうしても書きたいという強い思いを感じさせる作品が少ない。自分が書きたくて書いたといえる作品をもっと応募してもらいたい」

リリーさんは「一般的な傾向として、中学生くらいになると泣かせようとか感動的に書こうとかしがちだが、ノンフィクションを書くときは対象と書き手が良い距離感を保つことが大事だ」と、それぞれ受賞者に語りかけるようにお話をされました。

表彰式に引き続き、那須正幹さんの記念講演会「ズッコケ三人組　親子を語る」を朝日新聞社との共催で開催し、50名の参加がありました。

那須正幹さん
（記念講演会）

新資料紹介

北九州市内にお住いの三島平三郎さんより、杉田久女の短冊と書簡1通、橋本多佳子の書簡3通の計5点を寄贈頂きました。三島さんは、児童文学者で詩人の阿南哲朗の晩年の弟子です。書簡はいずれも阿南に宛てられたものでした。

久女の手紙は昭和4年5月20日の日付。前年に刊行された阿南の第一詩集『石に響く』に懇切な感想を寄せています。民謡篇が「大変おもしろく」、これによって「なつかしい『豊前小倉』が美しくのこる事をほんとに御礼申上ます」としています。

多佳子の手紙は、昭和初年に橋本家が櫓山荘（現・小倉北区）にあった時期のものに加え、奈良へ移った昭和22年5月のものが含まれます。戦後の手紙には、すっかり変わってしまった世の中で「生きのびしことさへ不思儀（ママ）」とし、戸畑の不動産売却のために北九州を訪れる予定でいることを伝えています。

阿南と久女、多佳子は小倉児童芸術協会などを通じて交流のあったことが知られています。

夜嵐に打れし牡丹を惜しみけり　久女

第5回「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクール表彰式

平成26年12月13日

北九州市立文学館では、北九州出身の詩人・宗左近、みずかみかずよを顕彰するとともに、子供の豊かな表現力を伸ばすことを目的に、「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールを実施しています。今年で5回目になるコンクールには県内外から小学生の部に925作品、中学生の部には724作品の応募があり、詩人の平出隆さんの最終選考により各受賞者が決定しました。

表彰式では、平出隆さんから「中学生の部では、良い作品はよく苦しみと向き合っている作品が多く、小学生の部では生命のあり方を見つめての喜びを表している作品が多い。」との講評をいただきました。

表彰式後は高山保材さん指揮、北九州市小倉少年少女合唱団、北九州少年合唱隊のミニコンサートが行われました。

小学生の部受賞者と選考委員のみなさん

中学生の部受賞者と選考委員のみなさん

受賞者　小学生の部

宗左近賞＝元野愛美、みずかみかずよ賞＝大石寛子、北九州市長賞＝藤浪杏奈、北九州市教育長賞＝大畠透斗、北九州市立文学館館長賞＝脇坂真帆、学校賞＝北九州市立上津役小学校、萩原小学校

中学生の部

宗左近賞＝吉永明日香、みずかみかずよ賞＝細川奈留海、北九州市長賞＝古木菜々美、北九州市教育長賞＝山元龍生、北九州市立文学館長賞＝小早川天寧、学校賞＝九州国際大学付属中学校、北九州市立熊西中学校

（敬称略）

詩×音楽×ダンス 音巡りコンサート「ひびきあう」

～音と身体で感じる みずかみかずよの世界～

平成27年1月23日

4館連携企画（北九州市立文学館、北九州市立美術館、北九州市立響ホール、北九州芸術劇場）

北九州市出身の詩人・みずかみかずよの作品世界を音とダンスと朗読で表現するコンサートが、「春夏秋冬」・「あなたとわたし」・「いのり」をテーマに市内3会場で開催。文学館では1月23日、「春夏秋冬」が上演されました。

朗読されたかずよの詩は、「早春のファンファーレ」、「金のストロー」、「おちば」、「やくそく」など10篇。詩の言葉を軸に、チェロなどの楽器の音色とダンスとのコラボレーションで季節の移り変わりが表現されました。

また、戸畑中央小学校二年の大石寛子さんが、「第5回あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールで「みずかみかずよ賞」を受賞した詩「お空にでんわ」を朗読しました。

写真提供：北九州市芸術文化振興財団

シンポジウム「介護と文学」

高齢化、人口減少、消えつつある読者群と文学

平成26年12月4日

日本文藝家協会との共催（北九州市立商工貿易会館）

パネラー　伊藤比呂美さん（詩人・作家）、岡野雄一さん（マンガ家）、平川克美さん（作家・起業家）

コーディネーター　関川夏央さん（作家）

パネラー三人がそれぞれの自著『父の生きる』（伊藤）、『ペコロスの母に会いに行く』（岡野）、『俺に似たひと』（平川）を軸にトークを繰り広げました。

介護施設の母親に「会いに行く」体験を漫画にした岡野さん。在宅介護ができず負い目を感じていたとき、伊藤さんの「預けているのも広い意味での介護」という言葉に気持ちが楽になったそうです。そんな伊藤さんも、カリフォルニアと熊本を往復する遠距離介護を経験。「介護して一人前になった」と、父親の死の直後に強く感じたと話されました。平川さんは、介護は「生きる」ことの本質に触れる体験だったと振り返り、また、自分が父親に似てきたことをユーモア交じりに話されました。

写真提供：日本文藝家協会
左から岡野さん、平川さん、伊藤さん、関川さん

銀・ギラ・Ag 写真展

平成27年2月3日～3月8日

白黒印画紙を用いて作品を創る九州在住の写真家グループ「銀・ギラ・Ag」による写真展を開催。デジタル写真ではなく、歴史のある白黒フィルム、白黒印画紙の表現力を生かした作品110点を展示。会員のオリジナルプリント作品のほか、「フォトイメージ北九州の文学」のコーナーを設置。北九州にゆかりのある「森鷗外」、「火野葦平」、「みずかみかずよ」などの作品を基に制作した写真を展示しました。

会場には写真のほか、現像やプリントに使用する現像タンクや引伸機。明治時代のガラス乾板カメラや、重さ10kgもある大型カメラなども展示。

3月15日には会員によるフォトレクチャーを開催。写真の歴史やモノクローム写真、大型カメラの魅力などの講演を行いました。来場者から、「白黒写真は魅力的ですね」、「また現像から写真を始めてみたくなりました」などの意見が寄せられました。

詩画集「ふきのとう」展

平成27年3月11日～4月12日

本年は詩人・児童文学者のみずかみかずよ（1935－1988）の生誕80年にあたります。かずよの詩に、西川幸夫氏の水彩画をあわせた詩画集「ふきのとう」の刊行を記念し、「詩画集「ふきのとう」刊行する会」との共催で開催しました。展覧会では詩と絵のパネルの他、西川氏の原画や、「ごめんねキューピー」、「馬でかければ」などのかずよの直筆資料等を展示しました。

優しくも力強いかずよの詩と、西川氏の淡い色彩の水彩画の共鳴を感じられる展覧会となりました。

北九州と3・11
―ゆかりの作家が書いた東日本大震災―

平成27年3月11日～3月31日

全国文学館協議会と連動し、東日本大震災を記憶に留めるため行うもので、今回で3回目の開催になります。

八幡生まれの作家・村田喜代子の小説『光線』や、門司区在住のイラストレーター・黒田征太郎が、福島出身の農学者・小泉武夫とともに出した『土の話』など、北九州ゆかりの作家の作品のほか、全国の文学者が書いた震災関連作品や北九州市が行ってきた被災地支援活動、岩手県釜石市の被災直後と現在の写真の展示も行いました。

ロビー展

第10回檜山荘子ども俳句大会

平成26年10月25日～12月28日

大賞を受賞した田原小学校5年佐々木雄真さんの作品「びょうしつのまどからみえるなつのそら」など146作品を展示しました。

第8回北九州文学協会文学賞・第5回北九州芸術祭ジュニア部門川柳優秀作品展

平成27年1月4日～2月28日

北九州文学協会文学賞では特選を受賞した楠根はるえさんの「三食に笑顔の素をふりかける」、梅崎流青さんの「体温の残るブランコ子に譲る」など46作品を展示。

第5回北九州芸術祭ジュニア部門北九州市長賞を受賞した敬愛中学校3年高峰匡一郎さん、篠崎中学校1年井上雄介さん、長尾小学校6年　藤丸也さんなど51作品を色紙や短冊で展示しました。

第8回北九州文学協会文学賞優秀作品展

平成27年3月4日～3月31日

3月15日に文学館で開催された北九州文学協会文学賞表彰式に合わせ、俳句、短歌、川柳に入賞された作品を色紙や短冊にして展示しました。

展示には北九州文学協会後藤みな子理事長をはじめ役員の方々が文学館に来られ、和気あいあいと展示作業を行いました。

文学館セミナー

平成26年度後期

平成26年10月～平成27年3月

平成25年5月から始めた文学館セミナーもおかげさまで無事4回を終えました。今期の実施概要は以下の通りです。

書く＝講師・後藤みな子さん（作家、北九州文学協会理事長）

原稿用紙4枚程度の作文を発表し、講師のアドバイスを受ける。　参加16名

読む＝講師・渡瀬淳子さん（北九州市立大学准教授）

『平家物語』巻11、12の購読　参加19名

創る＝講師・岸原清行さん（俳誌「青嶺」主宰、福岡県俳句協会会長）

初心者のための俳句入門。参加11名

話す＝講師・江崎裕子さん（フリーアナウンサー）

好印象を受ける自己紹介を目指す。　参加7名

平成27年度前期

平成27年4月～9月

㊫**書く**＝後藤みな子さんの文章講座。第1水曜　定員15名

㊨**知る**＝渡瀬淳子さんのくずし字講座。第2金曜　定員15名

㊨**読む（日本文学）**＝倉本昭さんの「雨月物語」読解。第4土曜　定員30名

㊨**読む（外国文学）**＝岩本真理子さんのドイツ詩の世界。第1木曜　定員30名

※時間はすべて13時30分～15時。

夏の特別企画展

ベアトリクス・ポターとピーターラビット展

平成27年7月4日（土）～8月30日（日）

ピーターラビット物語の舞台となったニアソーリー村（UK）

秋の特別企画展

北九州文芸の現在（いま）（仮称）

平成27年10月24日（土）
～平成28年1月11日（祝）

ほかにも企画展、講演会等を開催します。お楽しみに！

第19回特別企画展開催予告

没後99年

夏目漱石 ―漱石山房の日々

平成27年5月2日（土）～6月21日（日）

2016年は夏目漱石の没後100年、翌17年は生誕150年にあたります。この記念年にさきがけ、没後「99」年展を開催します！

イベント案内

★開会記念講話
講師　石田忠彦さん
　　かごしま近代文学館アドバイザー
日時　5月2日（土）11時～12時
会場　北九州市立文学館

★夏目房之介さん講演会「漱石の孫」
日時　5月9日（土）13時30分～15時
会場　北九州芸術劇場中劇場

★文学講座「漱石の遺した〈文学の力〉とは何か」
講師　佐藤泰正さん（梅光学院大学客員教授）ほか5名
日時　5月18日～6月22日の毎月曜日 10時30分～12時30分
会場　ムーブ5階大セミナールーム
　　※アルス梅光小倉公開講座との共催

★ギャラリートーク
会期中の毎週日曜日14時～15時　学芸員による展示解説

※イベントには申し込みや参加料が必要なものがあります。
詳しくはチラシ等をご覧ください。

お悔やみ

●河野正彦さん（平成26年1月17日）詩誌「沙漠」代表、文学館友の会理事。

●手嶋吾郎さん（平成26年2月18日）番傘川柳本社九州総局顧問、北九州川柳作家連盟会長など。地域文化功労者表彰受賞。

●岩橋邦枝さん（平成26年6月11日）大学在学中に作家デビューし、芥川賞候補に2度挙がる。女性文学者の評伝も。北九州市自分史文学賞審査員を務めた。

●山下敏克さん（平成26年10月16日）同人誌「周炎」代表、北九州文学協会会長、文学館友の会理事など。

ご冥福をお祈り申し上げます

資料寄贈者・提供者

青野長幸、赤星文明、秋吉久紀夫、市川市文学ミュージアム、伊藤比呂美、大鬼諌、大阪俳句史協会、大沼遊魚、岡田哲也、岡山シティミュージアム、荻野裕子、荻原稔、海鳥社、かごしま近代文学館、梶原さい子、（公財）かすがい市民文化財団、神奈川近代文学館、鎌倉文学館、岸原清行、㈱紀伊國屋書店、久保田裕子、熊谷紀代、熊本学園大学出版会、くろつち短歌会、こおりやま文学の森資料館、後藤みな子、さいたま文学館、齊藤紗知依、椎窓猛、塩田勢津子、柴田康弘、石流短歌会、川内まごころ文学館、宗香、高橋久仁子、たねの会、調布市武者小路実篤記念館、鶴岡市立藤沢周平記念館、寺井谷子、徳島県立文学書道館、中原中也記念館、西川幸夫、能村研三、俳誌「六分儀」編集室、波佐間義之、羽毛田弘志、葉山修平、春野修二、深沢七郎文学記念館、福井県ふるさと文学館、福岡市文学館、ふくやま文学館、町田市民文学館ことばらんど、三島平三郎、三鷹市山本有三記念館、南川隆雄、南浜伊作、椋鳩十文学記念館、村田恵子、森鷗外記念会、森鷗外記念館、柳生じゅん子、矢城道子、横山哲夫、与謝野晶子文芸館

受贈雑誌一覧

藍、アヴァンティ、青嶺、馬酔木、あしへい、花鶏、穴生文芸、あん、色鳥、海、沖、海峡派、北九州文化、九州俳句、九州文學、九州文化協会、九大日文、群炎、月刊俳句界、玄海、沙漠、七曜、自鳴鐘、船団、川柳くろがね、川柳むらさき、小さい旗、天山牧歌、伝書鳩、天籟通信、とびうお、菜殻火、虹野、人間会議、白桃、ひびき、八雁、與謝野晶子研究

（五十音順）

北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum

2015年3月31日 発行
北九州市立文学館
〒803-0813
北九州市小倉北区城内4-1
TEL 093-571-1505
http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/

■ JR小倉駅より徒歩15分　■ JR西小倉駅より徒歩10分
■ 勝山公園バス停より徒歩1分　■ 北九州市役所前バス停より徒歩2分
■ 小倉北区役所前バス停より徒歩2分
■ 北九州都市高速大手町ランプより2分
■ 駐車場は文学館最寄りの各有料駐車場をご利用下さい

■ **開館時間** 9:30～18:00（入館は17:30まで）
※　平成26年4月1日から
　　平日の閉館時間が変更になりました。

■ **休館日**
毎週月曜日（月曜日が休日の場合は翌日）
年末年始